

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：木村 昌司

事業名	一般国道161号 <small>にしおおつ</small> 西大津バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自： <small>おおつ さかもとほんまち</small> 滋賀県大津市坂本本町 至： <small>おおつ よこぎいっちょうめ</small> 滋賀県大津市横木一丁目			延長	11.0km	
事業概要	地域高規格道路「琵琶湖西縦貫道路」は、滋賀県伊香郡木之本町から大津市に至る琵琶湖西岸を縦断する約80kmの地域高規格道路である。西大津バイパスは、琵琶湖西縦貫道路の一部を構成し、国道161号大津市内の交通混雑を緩和し、交通安全の確保等に寄与する延長11.0kmの道路である。					
S42年度事業化	S47年度都市計画決定 (H1年度変更)	S44年度用地着手	S45年度工事着手			
全体事業費	約970億円	事業進捗率	87%	供用済延長	11.0km	
計画交通量	34,100~58,300台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 2.3  (残事業) 5.8	総費用 (残事業)/(事業全体) 149/1,820億円 〔事業費：108/1,775億円〕 〔維持管理費：41/41億円〕	総便益 (残事業)/(事業全体) 859/4,238億円 〔走行時間短縮便益：771/3,851億円〕 〔走行費用減少便益：64/296億円〕 〔交通事故減少便益：24/91億円〕	基準年	平成18年	
感度分析の結果	残事業（事業全体）について感度分析を実施 交通量変動：B/C=6.3（交通量+10%） B/C=5.2（交通量-10%） 事業費変動：B/C=5.4（事業費+10%） B/C=6.2（事業費-10%）					
事業の効果等	・排出ガスの削減（NO2について74t/年削減、SPMについて4.8t/年削減） ・主要観光地へのアクセス向上（延暦寺へは京都東IC→ケーブル坂本 40分→14分） 他18項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	国道161号線は、地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、大津市をはじめとする関係2市の首長で構成される国道161号改良整備促進期成同盟会より早期整備の要望（平成18年7月28日）を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	湖西道路無料解放により、西大津バイパスの交通の集中状況はより悪化している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	・全線暫定供用済(L=11.0km)。うちL=3.0km完成供用済。 ・用地については全て買収済。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	一部において、用地補償協議が難航し、事業認定を行ったため、工事着手までに長期間を要した。 18工区については、平成14年度から4車線化工事に着手しており、平成21年度の完成供用を目指し事業を推進するとともに、残る16工区については、本線4車化に向け、引き続き現計画により事業を推進する。					
施設の構造や工法の変更等	坑口、その他のり面緑化について、新工法（ネッコチップ工法）を採用している。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					

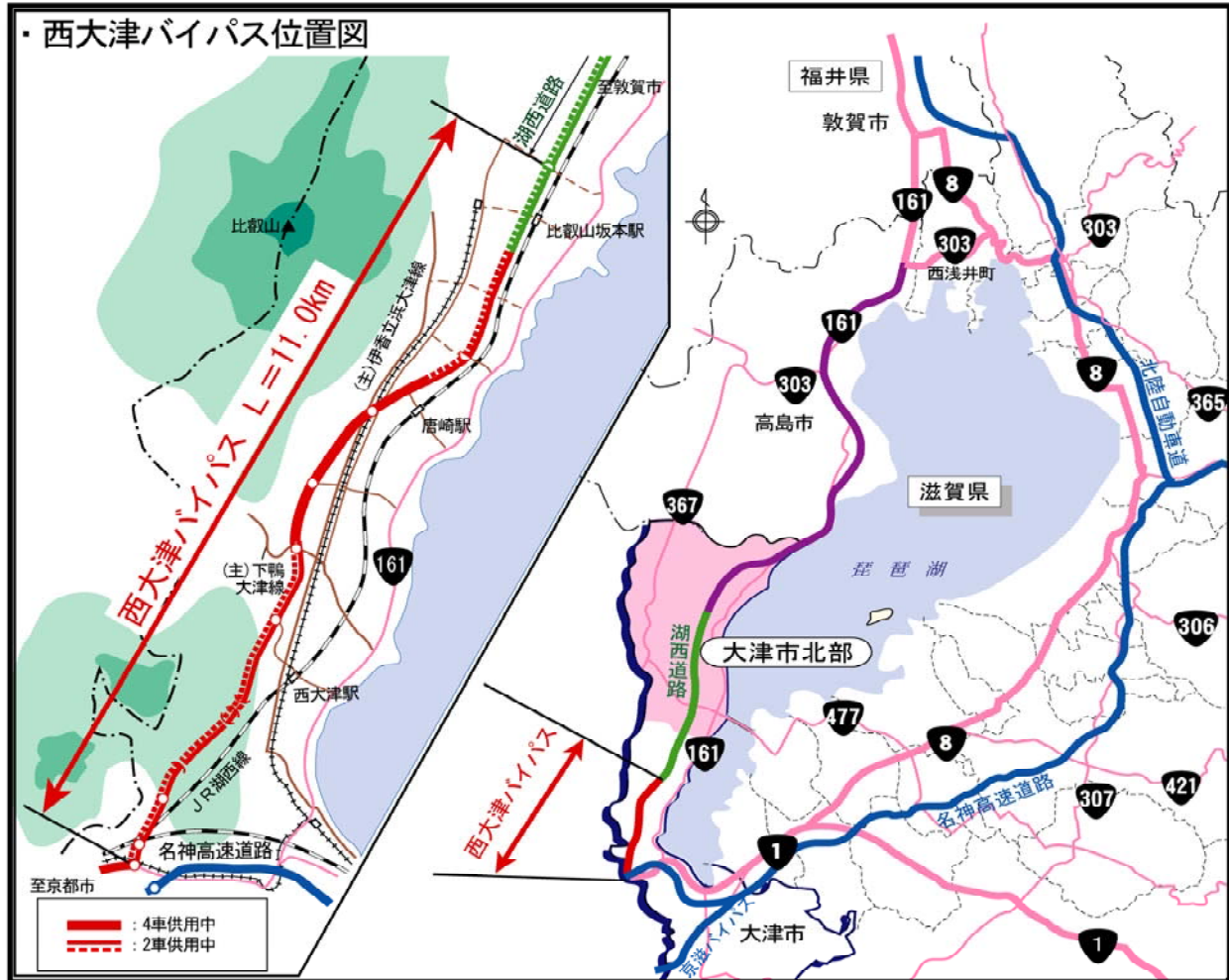
※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
 担当課長名：木村 昌司

事業名	一般国道161号 <small>にしおおつ</small> 西大津バイパス	事業種別	一般国道	事業主体	近畿地方整備局
起終点	自： <small>しがけんおおつしなかもとほんまち</small> 滋賀県大津市坂本本町 至： <small>しがけんおおつしよこぎいちちようめ</small> 滋賀県大津市横木一丁目			延長	11.0km

事業概念図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。